

## 放射線治療センター開設のお知らせ

日本では、高齢化に伴い、がんにかかったり、がんで命を失う人が年々増えています。一生のうちに、2人に1人ががんにかかり、そして3人に1人ががんで命を失います。がんで亡くなる人の数は、年間30万人以上にもなります。これら多くのがんの患者さんを救うべく、昨年10月に、当院は奈良県のがん診療連携支援病院に指定されました。

がんの治療法には、主に、手術治療、抗がん剤などの薬物治療と放射線治療があります。これらの治療は単独で行う場合もありますが、がんの種類や進行度に応じて、さまざまな治療法を組み合わせる場合があります。集学的治療と呼ばれています。これまで当院では、放射線治療装置がなかったため、手術および薬物治療のみを行い、放射線治療は奈良医大などをお願いしてきました。そのため、治療待ちの日数等でご不便をかけることになっていました。

そこで、当院で放射線治療を開始することを決断しました。各方面の多大な協力を得て、治療専門医をはじめとする優秀なスタッフを集めることができました。

当センターに導入する放射線治療装置は、「True beam」という名前の最新鋭機器です。県内では奈良医大に1装置あるのみの、非常に優れた装置です。

放射線治療は、放射線の細胞分裂を止める作用により、腫瘍を縮小させる治療法です。しかし、従来の放射線治療装置では、がん病巣だけでなく、正常な組織も放射線を被ばくすることが問題でした。

そのため、放射線が当たってはいけない腸管などのある腹部などでは、安全に治療を行うことが困難でした。

しかし、最新鋭の治療装置では、病巣に対し多方向から放射線を集中させる定位放射線治療が可能で、周囲の正常組織に当たる線量を、極力減少させることができます。今回導入する最新鋭装置による放射線治療は、ミリ単位の精度で管理されます。主な治療の対象は、肺がん・乳がん・前立腺がん・食道がん・直腸がん・子宮がんなどですが、骨や脳の転移にも大変効果があります。

現在、放射線治療棟の建設中で、今年の12月ごろには、放射線治療センターを立ち上げ、治療を開始する予定をしています。

今後、当院でのがん治療は、手術を行わず放射線治療単独で終了する症例や、手術と抗がん剤治療に放射線治療も加える、徹底した集学的治療を行う症例など、がんの種類や進行度、あるいは患者さんの年齢や体力に応じた治療が可能になります。高齢の患者さんには、入院での放射線治療も可能です。

当院がめざす、患者さん中心の医療を、がん診療の分野へも進めることができます。これからも、市立病院をよろしく願います。

〔がん医療推進委員会委員長（副院長）岡村隆仁〕